

4/30 災害等発生時におけるレンタル機材および資材の提供に関する協定 有限会社ウエنزと愛南町が協定を締結



愛媛
CATV
動画



▲左から 村上正宣取締役、中村維伯町長

役場本庁で、災害等発生時におけるレンタル機材および資材の提供に関する協定式が行われました。この協定は、町内で地震、津波、風水害等の発生時に、(有)ウエنزの協力を得て、テントや椅子、簡易ベッドなど避難所開設に必要な資材の運搬・設置・撤去および衛生管理等の提供を受けることで、救援・復旧活動を円滑に実施し、住民生活の早期安定を図ることを目的としています。

村上正宣取締役は「幅広い資機材を取り扱っているため、防災訓練以外にもさまざまな分野で活用できます。今後皆さんの役に立てるよう日々精進していきたい」と話しました。

4/30 南宇和高校相撲部出身 福原丈一朗さんが堂々の凱旋 東洋大学相撲部が強化合宿を実施



愛媛
CATV
動画



▲南高相撲場を訪れ、記念品とエールを贈る
中村維伯町長

4月29日(火)、宇和島市総合体育館で開催された第42回全日本大学選抜相撲宇和島大会で7年ぶり5度目の団体優勝に輝いた東洋大学。優勝の興奮冷めやらぬまま、30日(水)から3日間にわたり町内で合宿に臨みました。

同部1年生にして団体戦の先鋒を努め、個人戦ではベスト8の福原丈一朗さんは、高校卒業後まもなくして輝かしい成績を残して故郷へ凱旋。「さらなる高みを目指して仲間とともに日々の稽古に励みたい」と話す福原さんは、母校の相撲場で故郷への感謝の気持ちとともに、大学の仲間と稽古に臨みました。また、この日の稽古に参加した少年力士たちに胸を貸すなど、充実した時間を過ごしました。

5/8 美しさと地球環境保護を結びつけた新たな国際的美容コンテスト ミスジャンプラネット愛媛代表の山口恵未さんが町長に報告



愛媛
CATV
動画



▲ミスジャンプラネット愛媛代表に選出された山口恵未さん

商工観光課に所属する山口恵未さんが、今年の3月に行われた大会でミスプラネットジャパン愛媛代表に選出されました。ミスプラネットジャパンは、2021年からカンボジアで始まった国際的なミスコンテストであるミスプラネットインターナショナルの日本大会です。この大会では、国連の持続可能な開発目標(SDGs)に基づき、地球の未来を守ることを目的としており、美しさだけでなく、地球の保護に対する深い信念を持つ女性たちが選ばれます。

山口さんは「大会に向けて、今よりレベルアップして、後悔のないようにしたい」と意気込みを語りました。9月開催予定の日本大会に向けて、山口さんの活躍を祈念します。

5/
11

長年の地域貢献活動で緑綬褒状受章の南宇和ライオンズクラブ 「ごみゼロの日」に総勢95人で片の浜清掃活動を実施



愛媛
CATV
動画



▲片の浜清掃参加者の皆さん

南宇和ライオンズクラブが「ライオンズ奉仕デー」と銘打って御荘湾片の浜の清掃活動を行い、21団体95人が参加しました。この取り組みは、地域の美しい環境と御荘湾に生息する希少種生物（ドロアワモチなど）を守ることを目的に平成16年から春と秋に実施しており、この日の清掃では養殖いかなだのブイや流木のほか、空き缶やペットボトルなど約1トンのごみを拾い集めました。

環境保全活動をはじめ、長年にわたる地域貢献が高く評価された南宇和ライオンズクラブは4月29日付けで緑綬褒状を受章。吉田茂生会長は、「地域の方々の協力^{しげお}で私たちは活動することができています。感謝の気持ちで地域貢献に尽力し、活動を次世代につなげていきたい」と述べました。

5/
21

新名物ウニッコリーを活用し関係人口の創出につなげる ウニッコリー体験ツアー（モニター）を町職員対象に実施



▲ザルなどを使いウニッコリーの殻割りに挑戦するモニター参加職員

愛南の藻場を守る会が主催となり、西海町民会館でウニッコリー体験ツアー（モニター）を実施しました。

本来、食用には向かないとされるガンガゼウニにブロッコリーの残渣や愛南ゴールドを餌として与え、新たに開発されたウニッコリー。このツアーは、ウニッコリーを活用して関係人口の創出を目指す体験・学習型観光コンテンツとなっており、海についての学びや体験を提供する機会として幅広い年齢層をターゲットとして設定しています。

今回、役場職員がツアー参加者として実物の海藻観察やウニッコリーの殻割り体験を行い、ツアーコンテンツとしてのさらなる完成度と満足度を求めて活発な意見交換も行われました。

5/
23

次代を担う高校生に水産業の取り組みと魅力を伝える 令和7年度愛南町水産人材育成事業を開講



愛媛
CATV
動画



▲山本正文水産課長の講話を真剣に聞く生徒

町では、活力ある水産業を支える意欲ある若い人材の育成・確保が急務であることから、南宇和高校1年生を対象に愛南町水産人材育成事業を毎年7回にわたり開講しており、今年度の1回目を5月23日（金）に実施しました。山本正文水産課長が講師として登壇し、^{まさふみ}「愛南町の水産現場から学ぶ地域活性化」と題し講話を行いました。

生徒らは町の水産業の特色や課題、現場で進む技術改革などの話を熱心に聞いてメモを取り、町が誇る水産業について改めて理解を深めていました。今後も漁場の環境保全に関することなど座学以外にもさまざまな講座を予定しており、若い水産人材の育成につなげていきます。

5/23

消防救助活動の技術向上を図るため日々鍛錬

第10回愛媛県消防救助技術大会出場をかねて署内選考会を実施

愛媛
CATV
動画

▲県大会出場をかねて懸命にロープをわたる隊員

「第10回愛媛県消防救助技術大会」へ出場する隊員の署内選考会に、第1小隊・第2小隊の隊員11人が参加しました。

ロープブリッジ渡過訓練は、水平に張られた渡過ロープ20メートル（往復40メートル）を、往路は「セーラー渡過」（ロープの上に乗し、そのまま渡る方法）、復路は「モンキー渡過」（ロープに対してぶら下がった状態で渡る方法）するもので、「渡過」は河川に残された人の救助や災害現場への進入に使われる技術です。

6月5日（木）に松山市で開催された県大会へ出場した隊員は、安全・確実・迅速をモットーに全力を尽くしました。

町消防本部から池田海斗^{かいと}隊員ほか2人が参加

ロープレスキューに特化したハイレベルな競技大会『GRINP JAPAN』

『GRINP JAPAN』は全国から現役消防士が集まり、国際的な安全水準に基づいてロープを使用した救助技術の普及と習得を目的に各種活動を展開。今年2月には香川県丸亀市一帯で競技大会が開催され、大型施設や遊園地を舞台に複雑多様化する災害を想定した救助訓練が行われました。

先輩職員に憧れて自身も活動に参加したと話す池田海斗^{かいと}隊員は、中四国から有志で集まった消防士のチームに所属し、非番の日を利用して町外で実施されるチームの訓練にも参加。「小規模な消防本部だからこそ、全隊員がロープレスキューへの理解を深め、安全に救助活動を行う技術を身につける必要がある」と話し、活動で学んだ救助技術を署内で共有・普及しています。



▲全国から集まった現役消防士。ここで生まれる横のつながりも財産と話す池田隊員。

地域おこし協力隊 活動日記

「愛南ファン募集中」

こんにちは。農林課地域おこし協力隊の大西梓沙^{あずさ}です。ちょうど今の時期は愛南町の特産品である愛南ゴールド（河内晩柑）が出荷最盛期！と、言いたいところなのですが、私が協力隊としてお邪魔させてもらっている愛南ゴールド園地はどこも不作・・・人によっては例年の4割程度しか収穫できていないとの声もありました。ここまで不作になった正確な原因は不明ですが、去年の酷暑や暖冬、カメムシの大量発生、周期的に訪れる裏年であったなど、さまざまな要因が重なった結果ではないかと言われています。

そんな中、県外での愛南ゴールドの認知度向上のため、宮城県仙台市と岩手県盛岡市に農業支援センターの職員、南宇和高校生と一緒に



販売促進活動に行ってきました。お客さんと実際に顔を合わせながら販売させていただいたおかげで、「去年も愛南ゴールド買いました!」「愛南町にふるさと納税したんです」など、愛南ゴールドの名前だけでなく愛南町のことを知ってくれる方々がいるという手ごたえを感じることができました。今後もこのような販売促進活動などを通して、愛南ゴールドと愛南町のファンになってくれる方々を増やしていきたいと思っています。